

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年8月2日(2007.8.2)

【公表番号】特表2006-527744(P2006-527744A)

【公表日】平成18年12月7日(2006.12.7)

【年通号数】公開・登録公報2006-048

【出願番号】特願2006-516303(P2006-516303)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/35 (2006.01)

A 6 1 K 8/49 (2006.01)

A 6 1 K 8/41 (2006.01)

A 6 1 K 8/40 (2006.01)

A 6 1 Q 5/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/35

A 6 1 K 8/49

A 6 1 K 8/41

A 6 1 K 8/40

A 6 1 Q 5/10

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月12日(2007.6.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

適切な染色媒体中に、酸化剤、7より大きいpHを達成する量でのアルカリ剤、及びリンカーを介して共に結合されたいくつかの発色団を含むカチオン性混合染料を含む明色化染料組成物であって、前記発色団の少なくとも二つは異なり、前記発色団は400から800nmの間の少なくとも一つの吸収最大を示す組成物。

【請求項2】

前記発色団が、アゾ、キサンテン、ヒドラゾン及びアリアルヒドラゾン、フェノチアジン、アクリジン、ジケトピロロピロール、シアニン、特にテトラアザカルボシアニン、アントラキノ、メチン、アゾメチン、インジゴ、及びニトロ、特にニトロ(ヘテロ)芳香族、の各発色団から選択される、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記混合染料がジカチオン性である、請求項1または2に記載の組成物。

【請求項4】

前記混合染料が2または3の発色団を含み、発色団の少なくとも二つがカチオン性であり、リンカーがカチオン性または非カチオン性である、請求項1または2に記載の組成物。

【請求項5】

前記混合染料が、式：染料1-L-染料2〔式中、Lはカチオン性または非カチオン性リンカーであり、染料1及び染料2は異なるカチオン性発色団である〕に対応する、請求項1から4のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項6】

前記混合染料が、カチオン性アゾ発色団を含む、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記リンカーが、 $C_1 - C_{20}$ の、直鎖状、分枝状、または環状の、任意に置換された炭化水素ベースの鎖であって、前記鎖の炭素原子の一つ以上は、硫黄、窒素、または酸素のような少なくとも一つのヘテロ原子で、及び / またはカルボニル基のようなヘテロ原子を含む少なくとも一つの基で置換されても良く、前記炭化水素ベースの鎖は、不飽和であるか、少なくとも一つの任意に置換されたアルケニル基；任意に置換されたアリーレン基；任意に置換された二価テレフタルアミド基；任意に置換された二価複素環基、たとえば二価トリアジン基、または $-NH-CO-$ 基を含んでも良いものから選択される、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の組成物。

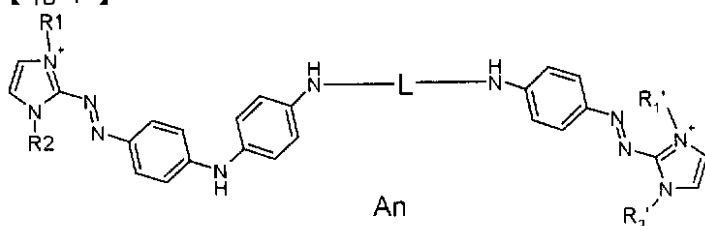
【請求項 8】

前記リンカーが、前記混合染料が有している発色団の吸収最大の波長のスケール上の位置が、別個に採取される発色団のそれぞれの吸収最大に対して 30 ナノメートルより大きいものまで変更されるべきではない態様で、前記混合染料から発色団のそれぞれを引き離す原子または原子群を含む、請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 9】

前記混合染料が下式：

【化 1】



[式中、L はリンカーであり、R 1 及び R 1 ' は、一つ以上のヒドロキシルで任意に置換された好ましくは $C_1 - C_6$ のアルキル基、 $C_1 - C_2$ アルコキシ、 $C_2 - C_4$ (ポリ)ヒドロキシアルコキシ、アミノ、 $C_1 - C_2$ (ジ)アルキルアミノ、または任意に置換されたアリール基から独立に選択され、R 2 及び R 2 ' は、一つ以上のヒドロキシルで任意に置換された $C_1 - C_6$ アルキル基、 $C_1 - C_2$ アルコキシ、 $C_2 - C_4$ (ポリ)ヒドロキシアルコキシ、アミノ、または $C_1 - C_2$ (ジ)アルキルアミノ基；任意に置換されたフェニル基から独立に選択され、An は、一つ以上の同一または異なる、一価または多価のアニオンを表す]。

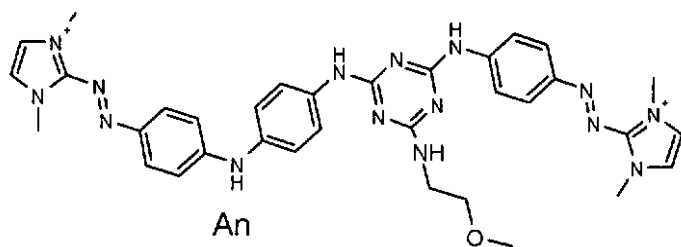
に対応する、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】

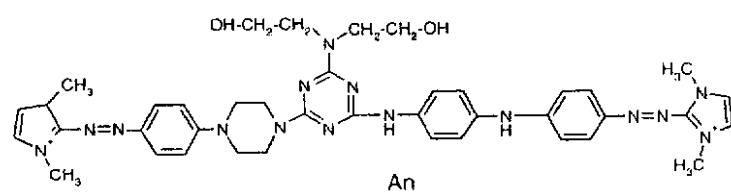
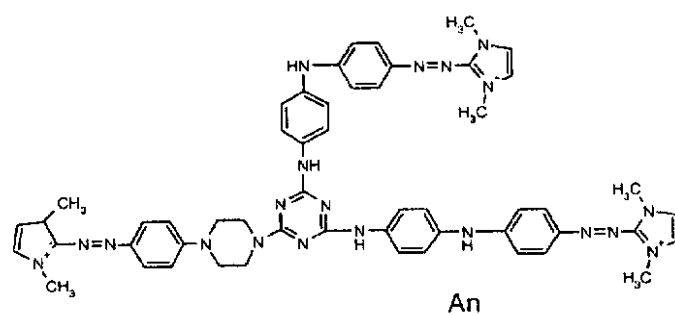
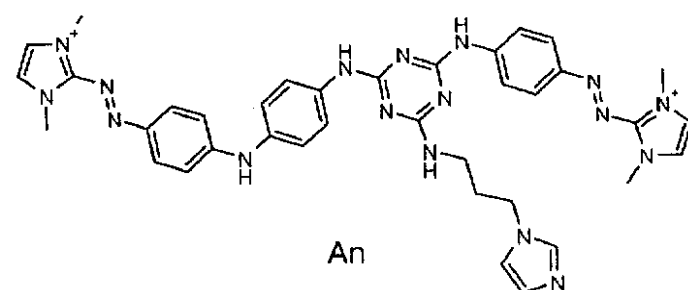
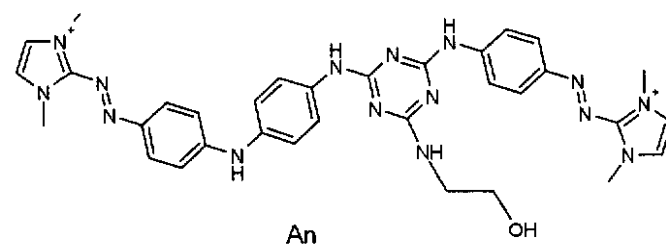
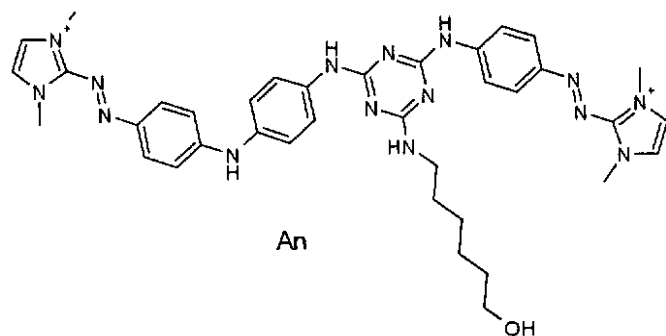
前記混合染料が以下の構造：

Cc1ccn([n+]1=N=Nc2ccc(Nc3ccc(Nc4c[nH]c5c(Nc6ccc(N=[N+]([n-]6)c7ccn([n+]7=N=N)c8cc[nH]8)c54)cc3)cc2)cc1)OCCO

An



【化 3】



に対応する、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 1 1】

前記混合染料の量が、前記組成物の総重量に対して 0.001% から 20% の間である、請求項 1 から 1 0 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 1 2】

p H が 8 から 11 の間である、請求項 1 から 1 1 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 1 3】

請求項 1 から 1 2 のいずれか一項に記載の染料組成物が、明色化及び所望の着色を得るのに十分な時間でケラチン繊維に適用されることを特徴とする、ケラチン繊維の酸化染色方法。

【請求項 1 4】

前記酸化剤が、請求項 1 から 1 3 のいずれか一項に規定された混合染料を含むものとは異なる組成物に含まれる、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 5】

第一の区画がアルカリ化剤と請求項 1 から 1 1 に規定された混合染料とを含む染料組成物を含み、第二の区画が酸化剤を含む、多区画装置。

【請求項 1 6】

ケラチン繊維を明色化染色するための、請求項 1 から 1 2 に規定された染料の使用。

【請求項 1 7】

良好なシャンプー耐性を得るための、請求項 1 6 に記載の使用。

【請求項 1 8】

経時的な着色の良好な耐性を得るための、請求項 1 6 に記載の使用。

【請求項 1 9】

経時的に安定な染料組成物を得るための、請求項 1 6 に記載の使用。